

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第35回）

新学年が始まりました



6月3日に新学年が始まりました。2年前に新しい教科書とともに小学生になった子ども達はもう3年生です。初めて目にするカラフルな教科書を、まるではじめて絵本に出会った小さな子どものように見入っていた新3年生は、少しお兄さんお姉さんになって、先生にあてられて教室の前方で発表するのもすっかり平気な様子です。

1学年に複数のクラスのある学校を訪ねたところ、同じ時間帯に同じ教科を教えており、同じ単元でも先生によって少しずつ授業が異なるのを興味深く拝見しました。隣の子の教科書やノートをのぞき込むのを見ていたら、会話はよく聞こえませんが、解答の盗み見ではなく、おしゃべりでもなく、相談して答えを見つけ出そうとしている様子がわかりました。



以前のミャンマーの教室なら、どのクラスでも声をそろえて先生の後に続く教科書記載内容の唱和が延々と続き、外国人が訪ねようものなら一段と気合が入って耳鳴りがしそうな大音量で響いていたものです。

国語の授業で神妙な面持ちで国家を歌っていた子ども達が、次の英語の授業で家族の職業のロールプレイに大笑いしているのを見て、なんだかほっとしました。（もちろん真剣に歌う姿もとても愛しかったです！）





新学年開始にあわせて、新カリキュラム広報も一新しましたので、是非ご覧ください。

↓新テレビコマーシャル 短編ドラマ仕立て

<https://www.youtube.com/watch?v=y8v7W0fy5ks>

<https://www.youtube.com/watch?v=aCx7XaNOBtE>

↓昨年から放送しているコマーシャル

<https://www.youtube.com/watch?v=Gl7vzCnDoqk>

これ以外のビデオは第35回ニュースレターでお知らせしている CREATE Youtube Channel からご覧になれます。

↓CREATE Youtube Channel

<https://www.youtube.com/c/CREATEProject>

おすすめはこちら↓CREATE 広報ビデオ

https://www.youtube.com/watch?v=FeD-zJ_QiXk&t=18s

←現地の新聞に掲載した広告（元はミャンマー語です）

3年生の教科書開発

第33回ニュースレターでお知らせしたように、3年生の教科書開発はそれ以前と比べてずいぶんスムーズに進みましたが、そこには新たなプレッシャーもありました。この6月に新規導入されるのは3年生だけでなかったのです。6年生、つまり中学1年生も、同時に新しくなりました¹。教科書や指導書を執筆する方々が不足するのはもちろん、教科面のレビューを担当する教科別カリキュラム委員会（Subject-wise Curriculum Committee: SWC）、承認する国家カリキュラム委員会（National Curriculum Committee: NCC）、教育省の担当部署など、すべての関係者が、限られた期間に2倍の確認作業をこなさなくてはならないため、2学年開発した経験のある CREATE は、これまでよりも早いペースで開発やトライアウト授業、承認にむけた手続きを進めることを求められました。学年が上がって内容が増え、難しくなってくる中でのチャレンジでしたが、

新しいカリキュラムは、アウンサン・スー・チー国家顧問やミョー・ティン・ジー教育大臣からも高い評価をいただいています。教育大臣はこの半年に3回もプロジェクトを訪問し、関係者を激励してくださいました。



大臣 CREATE 訪問を伝える教育省ウェブサイト

¹ 中学・高校のカリキュラム改訂はアジア開発銀行（ADB）の借款を活用してミャンマー政府が行っています。

皆の努力のおかげで見事！要望におこたえし、2018年10月には全ての教科書、2019年1月には最後の指導書の承認を受けることができました。

さらに、これまで執筆者やDTPオペレーターのセンスに委ねていたデザイン上の指導にも力を入れ、より見やすく、ミャンマーや子ども達の多様性を意識し、さまざまな教育的配慮をするよう伝えています。ミャンマー政府が行う教科書の印刷・配布についても、改善にむけた情報提供を行いました。

教科書に載せる内容と同様、最終的にはミャンマーの執筆者や専門家の見解を尊重した紙面、ミャンマーの印刷慣行による製造になりますので、日本の教科書と違うところはたくさんありますが、それも含めて、「ミャンマーで今できる最善」を尽くしたカリキュラムだと思っています。



G3から教科書印刷の所管が移った情報省に対して行った大臣主催の印刷技術セミナーを紹介する現地の新聞記事

CREATE プロジェクトは、日本政府やJICA関係のみならず、学校、企業、非営利団体、国連機関、メディア等さまざまな方面からご照会や、講演や取材のご依頼をいただいています。たとえば2018年11月にはこんなことがありました…



文部科学審議官訪問



ヤンゴン日本人学校の修学旅行受入れ



ヤンゴン日本人会広報誌への記事掲載

新しいアセスメント

CREATE では、教科書・教師用指導書に準拠した例題集を毎学年作成しています。2年生分の全国配布に先立って教育省がアセスメント全国研修を実施しました。

ミャンマーでは長年教科書の内容を覚えることと、どれくらいたくさん覚えているかをはかるテストを基本とした評価が行われてきましたが、新しいカリキュラムでは、児童の学習状況を確認し、確かめる過程で学びを促進する、また先生が適切にサポートしたり、教え方を工夫したりするためのアセスメントを提唱しています。あまりに大きな方向転換なので、まだまだ先生方や学校や教育行政官、政策機関の間では戸惑いもあるようですが、少しずつでも、学びの一部としてのアセスメントが定着していくよう、お手伝いしていければと思います。

3年生新カリキュラム導入研修

3年生の新カリキュラム導入研修は1月の中央研修に始まり、州／管区、ディストリクト、タウンシップの各レベルでの研修が行われました。2年生に続き、全国すべての小学校の先生と教員養成校の講師が新カリキュラムの特徴や教え方を学び、それぞれの学校での実践に取り組んでいます。

実は3年生研修の開始直前に、プロジェクトは大きな試練に見舞われました。教科書開発や教師教育を担うミャンマー側の担当者（カウンターパート）の多くに異動の通達が出てしまったのです。この背



景には、2年制の短大である教員養成校がまもなく4年制の大学になるという計画があります。教育省はどこもかしこも人手不足、という現状が、大量異動という形であらわれてしまったわけですが、交渉の末、ほとんどのメンバーはプロジェクトに戻ることができました。

1年生、2年生の導入研修で講師の経験を積んだ先生の多くが6年生研修の担当になってしまうというCREATEにとっては残念なケースもあったようですが、その分、参加者自身の理解が定着しつつあることが見て取れたという心強い報告もありました。

研修教材や研修で使用したビデオクリップは「ミャンマー新初等カリキュラムウェブサイト」

（<https://createmm.org/en/download>）のダウンロードページ左側の「New Curriculum Introduction Training Materials」タブからご覧いただけます。

←先生方の学びも、新カリキュラムで推進している「やってみて、考えて、気づく」プロセスを経るようデザインされています。

プロジェクトの今の様子とこれから

4月に第4年次が始まったCREATEプロジェクトでは現在、カリキュラム開発チーム（Curriculum Development Team: CDT）のメンバー達が4年生のトライアウト授業のため、毎日あちこちの小学校にでかけています。同時に導入研修の準備も早めに開始しています。来年度は、4年生に加えて7年生（中学2年生）と10年生（高校1年生）の3学年同時導入ですから、今後のレビュー・校正・承認のプロセスや導入研修の日程はさらにタイトになる見込みで、早い教科は昨年11月から4年生の教科書の内容の検討を始めました。

4年生からは小学校高学年で、身につけるべき知識も考え方もスキルもぐんと高度になってきます。延べ約140人の大所帯で喧々諤々、行ったり来たり、やればやるほど生まれる気づきを共有し、問題を解決する日々です。どんな教科書ができあがるか、その教科書で来年からどんな授業が展開されて、子ども達のどんな笑顔が見られるか、その子達の10年後やその先のミャンマーが、今から楽しみです。



ミョー・テイン・ジー教育大臣とCREATEのメンバー

文責： 宮原 光（プロジェクト・コーディネーター／教科書開発）